

# リウマチ専門医(内科)研修ネットワークプログラム

## 1 はじめに

静岡県は、静岡市、浜松市の2つの政令指定都市があり、全国で10番目に多い人口370万人を抱える県です。さまざまな経済および産業関連指標が人口と同じく全国順位が10位前後である静岡県ですが、医療事情は極めて低い水準となっています。医師数は全国41位であり、医科大学も1つしかありません。昨今、若手医師の都市部への偏在により、静岡県の医療事情はいっそう劣悪な状況に陥っています。



リウマチ膠原病科は患者数からすると、高血圧症や糖尿病のように非常に多くの患者がいるわけではありませんが、いわゆる難病に属する疾患が多く、慢性疾患であり、医師、患者ともに生涯付き合っていかなければならない疾患群です。静岡県においては、リウマチ膠原病を専門とする医師が非常に少なく、これを育成することは急務です。

今回、県内で活発にリウマチ膠原病診療を行っている複数の医療機関が、系列の枠を超えてリウマチ膠原病専門医を育成するための研修プログラムを作成しました。

プログラムリーダー 浜松医科大学医学部免疫リウマチ内科 講師 小川 法良

## 2 目的

静岡県リウマチ専門医(内科)研修プログラムは、初期臨床研修を終えた医師を対象としている。

- (1) リウマチ膠原病学は独立した学問と認識されており、内科学のなかでも高度の専門性を要求される分野である。一般内科学に精通したリウマチ膠原病専門医を養成する。
- (2) 大学病院、市中病院のみならず一般診療所の医師としてやっていけるだけの、必要かつ十分な技術を身につける。

## 3 目標

### ◎ 目標症例数

①関節リウマチ	30例	②全身性エリテマトーデス	10例
③強皮症	5例	④多発性筋炎/皮膚筋炎	5例
⑤血管炎症候群	3例	⑥ベーチェット病	5例
⑦シェーグレン症候群	10例	⑧混合性結合組織病	5例
⑨血清反応陰性脊椎関節症	2例	⑩線維筋痛症	5例

## 4 特徴

- ① 本プログラムの研修期間は60ヶ月である。以下に述べる7病院を(原則)8ヶ月ずつローテーションし、最低3ヶ所以上研修することとし、最後の12ヶ月は其中で特に研修を希望する病院において研修する。プログラム終了時点において、リウマチ専門医取得が可能となるよう策定されている。
- ② 参加者は2年間の初期研修中に、内科的な全身管理(糖尿病、高血圧、高脂血症、循環および呼吸管理等)および麻酔管理や気管内挿管等の技術を習得している必要がある。
- ③ 研修の効果を上げるため2016年度の定員は5人とする。



## 7 研修病院群（症例実績を含む）

### ◎ 2015-2016 研修指定病院とプログラム責任者、プログラムの特徴

#### ① 浜松医科大学医学部附属病院免疫リウマチ内科

講師 小川 法良 1985 年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本リウマチ学会、日本臨床免疫学会、日本免疫学会、中部リウマチ学会、臨床リウマチ学会、日本炎症再生医学会、日本再生医療学会、日本臨床血液学会、日本血液学会、アメリカリウマチ学会、アメリカ免疫学会

資格：内科認定医、内科指導医、リウマチ専門医、リウマチ指導医、リウマチ財団登録医

当院は、静岡県内で最も多くの厚生労働省特定疾患診療の実績があり（リウマチ膠原病領域）、県内はもとより愛知県、長野県などの近県から通院している症例があり、症例が非常に豊富です。病棟ではチーム医療体制とし、すべての医師がすべての症例を把握する体制としています。外来診療にも力を入れており、当院のほか、県内の様々な病院（静岡厚生病院、公立森町病院、磐田市立総合病院、浜松赤十字病院、市立湖西病院）において外来診療を担当しており、院内外での研修が可能です。希望があれば、県内の開業医における実習も可能です。

カンファレンスや抄読会などを定期的で開催し、学会報告や論文作成の機会も豊富にあります。また全国に先駆けて創設した「静岡リウマチネットワーク」の事務局があり、関節リウマチ診療にも力を入れており、生物学的製剤や白血球除去療法などの高度医療を推進しています。

当院での研修期間中は、学会会費の負担免除、学会および研究会などにおける交通費支給を行い、勉学の機会を得やすいよう配慮し、充実した研修が送れる体制となっています。

#### ② 市立御前崎総合病院内科

院長 大橋弘幸 1981 年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本臨床免疫学会、日本リウマチ学会、中部リウマチ学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本甲状腺学会

資格：内科認定医、内科指導医、リウマチ専門医、リウマチ指導医

本院は、リウマチ・膠原病の専門施設がない御前崎市、菊川市、掛川市、袋井市、磐田市、牧之原市、島田市などの小笠・榛原・島田の地域にあります。平成 18 年度に本院にリウマチセンターを開設後、この地域のリウマチ性疾患患者が多数あつまってきています（関節リウマチ約 500 名、全身性エリテマトーデス 35 名、強皮症 30 名、シェーグレン症候群 50 名など）。このような患者の診断治療は、リウマチ・膠原病が全身の臓器障害を引き起こすことや、その合併症が様々であることから、腎臓内科、呼吸器内科、血液内科、整形外科や皮膚科などとの連携が必要ですが、本院は気軽に専門医に相談でき、必要な治療の援助をしてもらえます。

また、本院は回復期リハビリテーション病棟、介護療養病床も併設されており、主に関節リウマチ患者のリハビリテーションや長期的な療養までみて行く事ができます。さらに、地域の開業医や他病院と連携して患者さんを中心とした医療を全人的、総合的におこなっており、地域医療の中のリウマチ・膠原病診療を実践できます。研修体制は、リウマチ指導医 1 名、リウマチ専門医 1 名が主に担当しますが、リウマチ科も内科に属しますので腎臓内科、循環器内科、呼吸器内科の医師がそれぞれ指導する体制にあります。

## 【当院の特色】

- ・地域の中のリウマチ・膠原病の診療ができること
- ・各診療科との密接な連携が可能であること
- ・リウマチ・膠原病患者を診断治療のみならずリハビリや家庭生活の援助まで総合的な診療ができること
- ・研修する際も常勤医と同じ給与、待遇であること
- ・短期の研修でも病院宿舎を借りることが可能であること
- ・病院内に託児所があり、研修中も子供をあずけて研修可能であること
- ・学会や研究会の発表や海外学会出張も出張旅費や学会出席費が供与されること

### ③ 藤枝市立総合病院リウマチ科

科長 唐橋太郎 1992年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本リウマチ学会

資格：内科認定医、内科指導医、リウマチ専門医

当院のプログラムの目的としては膠原病、リウマチ疾患を診断、治療を組み立てられるようになること、症例発表ができるようになること、リウマチ専門医になることです。当院の特徴としては静岡中部ではリウマチ科を標榜している近隣の病院が少ないため症例数は多いと思われます。現在脳神経外科はないがそれ以外の科はそろっており、診療科間の垣根も低く他科との連携もとりやすいという特徴があります。その他の診療スタッフにも恵まれています。診療は基本的には主治医制をとっています。外来は医師3人体制（非常勤を含む）で平均外来患者120～140名・週（予約制）の体制で診療しています。適宜急患患者も受け入れています。週1回リウマチ科回診、週1回呼吸器科との合同カンファレンス、研修医を交え週1回の抄読会をおこなっています。和気あいあいとした雰囲気の中で診療をおこなっています。

### ④ 聖隷浜松病院膠原病リウマチ内科

部長 宮本俊明 1998年卒

所属学会：日本内科学会、日本リウマチ学会、日本呼吸器学会、日本感染症学会

資格：内科認定医、内科指導医、リウマチ専門医、リウマチ財団登録医、リウマチ指導医

月間外来患者数は約800人。関節リウマチ患者は約500～550例、その他の疾患ではシェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、強皮症、多発性筋炎、皮膚筋炎、血管炎症候群、ベーチェット病等多岐にわたります（現在上記より疾患数は増えています）。新規紹介患者には愛知県等県外からの紹介も多数含まれます。膠原病確定診断後のfollow up、セカンドオピニオンのみでなく、不明熱、関節痛、レイノー症状、皮疹、採血異常（自己抗体陽性、血球異常等）などの精査のため、紹介されることも多数です。膠原病は種々の臓器を含めた全身を障害される可能性のある疾患で、数ヶ月で不幸な転帰をたどる症例から数十年にわたりQOLを著しく障害される症例まで様々で、特に全身の臓器障害を引き起こす可能性があります、その際も呼吸器内科、腎臓内科、消化器内科等との強固な連携のもとに気管支鏡、腎生検等速やかな検査を適宜行い、治療の選択を行っています。自己免疫疾患という比較的稀な疾患ですが、特定臓器に偏らない全身性疾患であるため、全身を見渡す幅広い見識が必要であり、呼吸器、

腎臓、循環器、血液、消化器学などの基礎知識も必要です。さらに関節痛、腫張、皮疹のみではなく、診断が困難な不明熱症例の紹介は当科が多く、そのような意味でも一般臨床医としての能力も必要で、そのための研修には最適です。

現在当科は静岡県内でも数少ない膠原病・リウマチ専門診療機関であり、初診直接来院患者のみではなく、県外からも紹介患者は多数います。そのため専門医研修に十分な症例が経験可能です。

#### 【当院の特色】

- ・研修の際短期間でも希望があれば病院宿舎を借りることが可能
- ・学会や研究会参加・発表の際は出張費あり
- ・全国有数の専門科数があり、さまざまな他科との連携も強固に行っている
- ・入院患者については診断、治療方針の決定、治療手技の施行等指導医と一緒にいる。
- ・外来患者については、当初指導医の診療に立会い、リウマチ・膠原病外来診療について習得する。その後はある程度の研修後外来診療を指導医の監督の下行う。
- ・診断困難例、治療難渋例については、当院他科医師や他病院医師との合同カンファレンスで適宜討議する。
- ・研修中に受け持った興味ある症例はリウマチ・膠原病関連学会にて随時発表する機会があり、発表の準備は全て指導医のマンツーマン指導の下なされる。
- ・学会や研究会参加・発表の際は出張費あり。
- ・当院や地域の整形外科、内科との合同カンファレンスも定期的に行っており、整形外科的な視点も得ることが可能である。
- ・当院は先駆的治療として臨床治験（抗 TNF $\alpha$  モノクローナル抗体、CTLA4Ig、CD20 抗体、C5a inhibitor、抗 GM-CSF 抗体など多数）を積極的に行っており、さまざまな臨床研究も可能な環境である。
- ・希望があれば当院内科（総合診療内科、呼吸器内科、神経内科、腎臓内科、内分泌内科、等）や聖隷三方原病院内科への短期ローテーションも可能である。

#### ⑤ 浜松医療センター

リウマチ膠原病科科長 田原大悟 1982年卒 医学博士

所属学会：日本内科学会、日本腎臓病学会、日本透析医学会、日本糖尿病学会、日本リウマチ学会、日本東洋医学会

資格：認定内科医、総合内科専門医、内科指導医、日本腎臓病学会専門医、同指導医、日本透析医学会専門医、同指導医、日本糖尿病学会専門医、同指導医、日本リウマチ学会専門医、リウマチ財団登録医

医療センターには、内科系のリウマチ専門医2名が常勤しています。内科系専門医2名は腎臓、透析学会の指導医の資格も持ち血液浄化療法を中心になって行っています。血液吸着、血漿交換など膠原病領域で行われる治療もすぐに実施可能です。またリウマチ疾患でも腎不全始め、腎臓合併症は多くみかけますが腎生検から透析導入まで研修できます。

医局は整形外科と相部屋、病棟は血液内科と同じ病棟とリウマチ疾患に関係の深い科との結びつきが強く、また外科系、内科系ほぼ全科専門医がそろっており気軽に相談しながら、さまざまな総合的知識を吸収していくことが可能です。学会費、出張旅費などの補助もあります。

## ⑥ 静岡県立総合病院

**総合診療センター長 袴田康弘 1986年卒業、医学博士**

所属学会：リウマチ学会、内科学会、老年医学会、プライマリケア学会、糖尿病学会、感染症学会

当科施設資格：内科学会、リウマチ学会、老年医学会、プライマリケア学会認定研修施設

資格：内科学会認定総合専門医・評議員、老年医学会代議員、リウマチ学会専門医、糖尿病学会専門医、ICD

静岡県立総合病院総合診療センターの特徴は、「膠原病」を疑われる患者さんが多数紹介されてくることでしょうか。当院は静岡県中東部の医療圏80万人をカバーする病院(720床、医師数凡そ190人)で、当科(常勤スタッフ5人、非常勤スタッフ1名)へは結合組織疾患と難治性感染症の紹介が多いと思います。その意味で、不明熱の鑑別診断としての悪性腫瘍、結合組織疾患、感染症、その他の鑑別・治療までを勉強するには良い機会を提供できるはずです。1か月以上滞在するトレーニーには病院の賃貸アパートを用意します。

## ⑦ 聖隷三方原病院 感染症・リウマチ内科

**感染症・リウマチ内科 部長 志智大介 1995年卒**

資格：日本内科学会専門医・指導医、日本リウマチ学会専門医、日本リウマチ財団登録医、日本感染症学会認定インфекションコントロールドクター、日本感染症学会感染症専門医・暫定指導医、日本渡航医学会認定医療職、日本化学療法学会抗菌化学療法指導医

当院は約800床の大規模な地域中核病院で、2次救急を担い、急性期病院として患者が集中し、豊富な症例数の経験を積むことができます。当院は、結核予防法指定医療機関、エイズ拠点病院の認定を受け、地域がん診療連携拠点病院、臓器移植推進協力病院であり易感染者や免疫不全患者も多く日和見感染に対応しなければならないことも多いです。

当科は、感染症診療や感染管理領域、リウマチ・膠原病領域の診療を担っております。他科からは抗菌薬使用や感染症診療の相談を受け、看護師や病院職員には感染管理の教育、外来ではHIV専門外来と、膠原病・リウマチ領域で免疫抑制剤や生物学的製剤などの診療を行ない、専門的知識を蓄積した看護師と重層的な外来運営を行なっています。総合内科的診療をたいへん重視し、あらゆる主訴、訴えへの対応を行い、複合的疾患を持つ患者への総合的な病態の把握、管理を行っていきたいと考えています。

市内のリウマチ内科クリニックとの定期的な症例検討会を行っており、難解例に関しても多視点からの検討も可能です。希望があれば当院各診療科や聖隷浜松病院の各科への短期ローテーションも可能です。

\*今後、東部地区の医療機関が新規参加する可能性があります。

## 8 病院群の症例実績

\*「7 研修病院群(症例実績を含む)」を参照してください。

## 9 研修期間

- ① プログラム全体の研修期間は5年間（60ヶ月）
- ② 1年目から4年目（48ヶ月）までは、7病院の中から、最低、1病院あたり8ヶ月以上の期間の研修を行うこととし、3病院以上をローテーションする。
- ③ 最後の12ヶ月間は7病院のうち、希望する病院で研修を行う。

## 10 プログラム参加の要件

- ① 初期臨床研修を終えていること。
- ② リウマチ専門医取得の意思があること。

## 11 処遇

- ① 身分は原則常勤
- ② 勤務期間は各病院8ヶ月
- ③ 給与は、各病院の給与体系に従う

## 12 プログラム終了後の進路

- ① 大学にて研究、教育、診療を行う、海外留学する、一般病院勤務医となる、開業するなど個々のライフプランにより決定できる。
- ② 県内の病院に就職を希望する場合、研修管理委員会が対応する。
- ③ 就職相談窓口では勤務先病院での処遇、臨床研究、学位取得や海外留学などについて相談を行う。

## 13 プログラム運営委員会

### ○ プログラムの管理

〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1 浜松医科大学第三内科 小川 法良  
電話 053-435-2267 Fax 053-434-2910 E-mail : nogawa@hama-med. ac. jp

## 14 その他

### ◎ 取得できる認定医、専門医資格

研修指定病院は、日本内科学会および日本リウマチ学会の認定教育施設となっており、同学会の認定医および専門医を取得することが可能である（日本内科学会については、市立御前崎総合病院は現在申請中）。

#### 内科認定医の受験資格（2004年以後の医師国家試験合格者）

初期臨床研修2年（その内、内科臨床研修6ヶ月間以上）+教育病院または教育関連病院での「内科後期臨床研修1年間以上」=計3年以上

#### リウマチ専門医の受験資格

内科認定医であること、申請時において引き続き5年以上日本リウマチ学会の会員であること、日本リウマチ学会研修単位30単位以上を取得していること、認定教育施設において初期臨床研修医期間を除いて教育カリキュラムに沿った通算5年以上のリウマチ学の研修を行ったこと、が専門医資格認定試験の受験資格となる。